



Shoji Osima

CEO MESSAGE

ステークホルダーのみなさまへ

社会のみなさまに
心の底から共感していただける
会社となるために、
デンソーは生まれ変わります。

取締役社長
有馬 浩二

ステークホルダーのみなさまには日頃よりご支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。

デンソーを取り巻く 事業環境の変化

世界的な人口増加や、高齢化・都市化が拡大する中で、CO₂排出による温暖化と交通事故の増加が、ますます大きな社会課題となっています。加えて、社会は情報化・知能化の飛躍的な進展により、人々の価値観や消費行動の多様化、ビジネスモデルの変化が起こっています。また、モビリティ領域においても、IoT、AIの進化や異業種からの参入により、電動化、自動運転、コネクティッド、シェアリングが加速するなど、我々を取り巻く環境は、まさに「大変革期」を迎えています。このような中、これまでのやり方を踏襲しては、デンソーは生き残ることができないという大きな危機感を抱いています。

デンソーは、従来のクルマの基本性能である「走る・曲がる・止まる」といったハード領域を中心に技術を磨き、成長してきました。しかし、自動車業界に起こっている大変革により、クルマに求められる価値は大きく変わり、IT技術を活用したソフト領域における価値がますます高まっています。それに伴い、世の中の変化に素早く対応することを得意とするIT企業が自動車業界に参入してきており、変化のスピードはより一層加速しています。

このような非常に厳しい事業環境の中で、将来にわたって持続的に成長するため、改革を断行し、デンソーを、より強く、巧みに、「闘える集団」へと変えていくことが私の使命であると考えています。

長期ビジョンと 長期戦略に込めた想い

大変革期においても持続的に成長し続けるために、デンソーは2017年10月に、2030年の目指す姿を描いた「長期ビジョン」を策定しました。また、長期ビジョンを実現するための道筋として、長期戦略を策定しています。

長期ビジョン

「環境」、「安心」、「共感」の3つをキーワードに、従来注力している「環境」、「安心」の提供価値を最大化することに加え、社会から「共感」していただける新たな価値の提供を通じて、笑顔広がる社会づくりに貢献させていただきたいと考えています。

この大変革の時代にスピード感を持って事業活動を行うには、仲間づくりが必要不可欠です。対話を重ね、夢や想いを伝え合うことで、志をともにする方々に、仲間となっていただき、笑顔広がる未来づくりを加速させていきたいと考えています。

また、お客様やパートナーのみなさま、その先にいるすべての方々に、心の底から「共感」していただける会社へと生まれ変わりたいと考えています。そのために、お客様を第一に想い、徹底的に尽す、そして、社会のみなさまが本当に必要としているものは何かを常に問い続ける。この姿勢を大切に参ります。

長期戦略

長期ビジョンを実現するための長期戦略では、「経営改革5本の柱」を定めるとともに、「電動化」「先進安全／自動運転」「コネクティッド」「非車載事業(FA／農業)」を注力4分野として取り組みを加速し、2025年度の目標である、売上収益7兆円、営業利益率10%を実現します。

目標達成のためには、これまで以上に組織能力を高め、激動の環境においても闘っていける組織へと生まれ変わることが必要だと考えています。「経営改革5本の柱」においては、「車両視点の強化と技術開発の集約」「先端R&D機能の改革」「事業部の進化と小さく強い本社」「グローバル経営の刷新」「働き方の大改革」の5つを改革の柱として掲げ、組織の変革を推進していきます。経営改革とは、言い換えれば、現場の活力を飛躍的に高め、物事を遂行するスピードを圧倒的に速めることです。そのためには、グローバル社員17万人全員が、「グラウンドに立ち、失敗を恐れず、まずやってみよう、と一歩踏み出す」、「即、リアクションする」、「自分の仕事に、最大限の手間と情熱をかける」という強い想いを抱き、日々の業務に取り組むことが欠かせません。私は、この経営改革を通じて、社員一人ひとりの意識を変えていきたいと考えています。

**変革期を乗り越え
さらに成長するために
大切にすること**

「稼ぐ力」にこだわる

長期戦略の達成目標である、売上収益7兆円、営業利益率10%は、これまでの延長線上で達成できるものではありません。この目標を達成するためには、私たちは何を变えていかなければならないのか、どこでどのように稼ぐのか、しっかり見極めたいと考えています。2018年5月に、世界中の拠点から約250名のリーダーを集め開催したグローバルカンファレンスでも、このテーマを取り上げるなど、どのように稼ぐ力を高めていくのかについての議論を重ねています。

新しい技術・製品を具現化するためのモノづくりの力は、技術開発と並ぶ当社の競争力の源泉です。創業以来培ってきた、現場の知恵やノウハウに基づく高度なモノづくりの力を、ファクトリーIoTでさらに進化させ、稼ぐ力を一層高めていきます。

3つの「力」

また、このような誰も経験したことのない大変革期を乗り越え、さらに成長を続けるためには、社員全員が鋭く変化を感じ取り「私たちが世の中に新たな価値を届ける」という強い信念で、立ち向かわなければいけないと考えています。まさに「第二の創業」とも言うべき重要な局面であり、これを成すためには、一人ひとりがアクションを起こし、全員で力強く実行していくことが必要です。そうした想いを込め、私は、デンソーグループの全社員で、「気づく力」「氣を高める力」「伝える力」という、3つの力を大切に、この大変革期を乗り越え、成長していきたいと考えています。

『気づく力』

気づく力とは、物事の良いところを認め、心を躍らせ、自らの行動に結び付ける力です。自分の担当業務や製品、職場や会社という枠を取り払い、自分に何ができるのかを前向きに考えることで、様々な人との関わりや、目にする景色の中からより多くの気づきが得られるはずです。社員一人ひとりが、自ら気づき、自らを突き動かし、自分にしかできない行動を起こせば、デンソーは大きく生まれ変われると考えています。

『氣を高める力』

氣とは“エネルギー”です。氣を高める力とは、仕事に最大限の想いと手間をかけ、緊張感を持って取り組む力です。心の底から実現したい夢や目標を描き、仕事に想いを込め、いかなる手間も惜しむことなく、取り組んで参ります。

『伝える力』

伝える力とは、夢みる心を言葉にし、感動とともに、仲間の行動を喚起する力です。大きな夢を実現するための課題や困難も、心が通じ合った仲間とともに邁進すれば、必ず乗り越えることができると考えています。志を同じくする仲間を増やし、自分の夢を自分の言葉で伝えることで、活力あふれる組織へと進化していきます。

グローバル17万人の社員が、危機感を共有し、志を一つにし、力を合わせ、桁違いの成果を実現すべく、全身全霊で取り組んで参ります。

共感していただける 会社となるために

*持続可能な開発目標 (SDGs) とは？

2015年9月に150を超える首脳が参加する「国連持続可能な開発サミット」の成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択。人間、地球および繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げました。この目標が、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」です。「サステナビリティ」を考える上での世界の共通言語として位置付けられるものです。



2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)*」や、2016年に発効されたパリ協定を受けて、国際社会では社会課題の解決に対する企業への期待・要望が加速しています。そのような環境変化の中で、自社が生み出す価値が、社会課題にどのようなインパクトを与えるかを考え、社会の持続的成長に貢献することが求められています。

デンソーは創業以来、社是や基本理念、これまでの長期ビジョンを通じて、常に社会の持続可能性を考えてきました。2030年に向けた長期ビジョンにおいても、「環境」と「安心」の分野での新たな価値提供を通じ、持続可能な社会の実現に貢献したいと考え、そのために、2018年7月に当社の優先取組課題を明確化しました。

「環境」の分野では、電動化車両向け製品などの環境負荷を低減する製品の開発、および普及に努め、CO₂の排出量削減を目指します。また、「安心」の分野では、先進安全や自動運転に関連する製品の開発、および普及を加速させることで、交通事故の低減を目指します。そのほか、サプライチェーンを含めた人権尊重や、ガバナンスの強化など、計15項目の優先取組課題を設定し、効果的な活動へ落とし込み、推進していきます。

デンソーは今、海図なき厳しい世界を航海しています。今後も、多くの困難に遭遇すると覚悟していますが、「もっと良いモノをつくり、もっと良い社会の実現に貢献したい」という強い想いのもと、常にチャレンジを続けて参ります。

より良い未来を次世代に届けるため、情熱と笑顔で、豊かなモビリティ社会の実現と社会全体の持続的発展に貢献すべく、取り組んで参ります。

引き続きみなさまの変わらぬご支援を、よろしくお願い申し上げます。

有馬 浩二